

子ども神楽を奉納する田之浦小児童＝志布志市の田之浦ふるさと交流館

伝統の神楽 夏祭り で奉納

校区外生担い手に

志布志・田之浦小

志布志市の田之浦小学校の全児童28人が山宮神社夏祭りでも神楽を奉納した。うち20人は特認校制度で校区外から通う。舞を指導する田之浦山宮神社神楽保存会（小山昭市

会長）メンバーは「地域の子を含めて貴重な伝統文化の担い手に成長し、ありがたい」と話した。

同校は2016年度、全児童数4人となった。その後、少人数教育や神楽など特色ある活動を発信したところ、制度を使って通う児童が年々増えている。

夏祭り子ども神楽は新型コロナウイルスの影響で4年ぶり。田之浦夜神楽（県無形民俗文化財）を伝える保存会が6月下旬から放課後に教えてきた。

児童は7月29日、田之浦ふるさと交流館で幣舞、稚児鬼神舞、巫女舞、児鬼神舞、岩戸潜り舞を披露。笛や太鼓、かねに合わせ装束姿で舞う姿に、地区内外から訪れた約300人が見入った。

同制度で志布志小校区から通う6年、君は「練習の成果が出せた。田之浦で神楽を踊れて楽しい」と話した。

（福留梓）

南日本新聞掲載 R5.8.8